



漫遊記談

全二本

ル 4
1178
2





漫遊記譚前篇坤

洗心山人 黒崎貞孝至純父撰



常陸國日本守如土也といふき道路を通りしより
 一より後大織冠鎌足之孫淡海公不比等之三男孫
 合字合又馬合常陸守小任をり此世土といふもあま
 ず是よりさき元正天皇北憲範二年遣唐使と選ら
 られ此字合と副使と奉らば遂に往りてといふも字合
 當時其才徳名聲セキ藉甚なるを推して初る一
 懐風藻に贈倭判官留京の序并に詩あり今

此錄也

保其明公忘言歲久義存伐木道叶採葵待天千里之志于今三年懸我一筒榻於是九秋如河授官同日乍別殊鄉以為判官公潔等水壺明逾水鏡學隆万卷智載五車留驥足於將展預琢玉條迴鳥鳥之擬龍黍簡金科何異宣尼返魯刪定詩書叔孫入漢制設後儀聞夫天子下詔色列置師咸審才周各得其所明公獨自遺闕必舉理合先進還是後夫譬如吳馬瘦鹽人尚無識楚臣泣玉獨不悟然而歲寒

後驗松竹之貞風生廼解芝蘭之馥非鄭子產發夫然明非齊桓公何舉寧戚知人雖匪今日耳過時之罕自昔然其大器之晚終作寶質如有我一得之言庶幾慰君三思之意今贈一篇之詩輒示寸心之歎其

詞曰

自我弱冠從王事風塵歲月不曾休寒帷獨坐邊亭少點榻長悲搖落秋至今際之交遠相阻芝蘭之契接無由無由何見李將鄭有別何逢遠與散馳心悵望白雲天寄語徘徊明月前日下皇都君抱玉雲

端邊國我調絃清絃入化經三歲美玉韜光幾度
年知已難逢匪今耳忘言罕遇從來然為期永怕
風霜觸猶似巖心松柏堅

後長元三年五月叙正五位上七月朝廷始置按察使馬
卷之上上總下總安房三國之官也
聖武天皇神龜初為持節大將軍副將軍高橋安
麻呂と同く海東諸夷を征し從三位を授り此
三年八月擢ら^明此を為參議是歲より久く置幾内
惣管諸道鎮撫使一品新田部親王を大總管と

字合とて副總管とて明年西海道節度使と
なり六年三月授正三位と云

石上乙麻呂ハ左大臣贈從一位麻呂第三子也其為人穎秀
雍容閑雅甚善風儀最志墳典兼愛篇翰神龜年
中朝廷詔して唐使を簡くす^ハ遂に大使小拜也^ハ歌
衆愈悦服と云遂に從五位上陸守となり正四位
下より右大臣と兼中納言兼中務卿と歷從三位小
叙より其子宅嗣とて才名あり性朗悟有海儀好
屬文工草隸廢帝寶字五年遣唐副使小選と云

既^ちく^ちに罷^りて此常陸守に任^じて^り於^て稱^す徳天王景雲二
年春任^じ滿^ちて京^に歸^り後^に從^じ二位任^じ兼^し議^後志^をり
歷^し官^{して}姓^物部^朝臣^と賜^ひ大^納言^と轉^じ正^{三位}と
加^し於^て費^後詔^賜正^{三位}其^の他^百濟^王敬^福藤^原清
河^藤原^小黒^麻呂^紀船^守菅^野真^道等^{あり}と^て也
予^長於^此を^贈一^ぬ

唐^宮大^神八^常陸^最第^一の古^名蹟^{あり}近^時名^所因^繪
亦^不行^り能^て遍^く人^の知^れる^{こと}也^今於^此を^贈也^り

大^洗神^社本^邦醫^家の始^祖と^す屋^一近^時官^醫郡

須^氏の本^朝醫^史傳^と詳^{なり}

新^治の郡^名なりと^りの言^ふ新^治と^知る^に按^{する}出^雲者
新^羅王^之十^握稻^穂ト云^く此^地良^田稼^多くと^り雲^の出^る也^り如
く^かる^{こと}と^{して}出^雲とい^ふ是^新治^也新^羅王^と同^言は
さ^いの^りな^り也^り

薩^都神^社と^り佐^都と^り見^る即^ち久^慈郡^里野^宮は
本^朝俗^談志^又和^訓秘^記と^り小^常陸^國太^田の社^造堂^の
時^抄の神^杖の中^小唐^島大^神宮^の文^字あり左^右甚^分
明^{なり}因^て一^唐島^と納^免一^當社^小納^むと^云奇^{なり}と^り

静神社昔ハ久慈郡トシテ今那珂郡ニ属セリノ郷中の
一大社ナリノ再考モトク

風土記ニ静織山ハ久慈郡の西ニ在リテ織綾ト設ル地

トシテ玉川郡の北ニ在リテ一見由梅トシテ静織山即

今の静村トシテ玉川郡ハ今の村田の玉川トスル屋

此の玉川ナリトシテ部岳村昔々画家雪村流寓セリト地ナリト

明僧心越禪師在國トシテ屏化セリト遍テ人の知ル所ナリト書

画ハ更ナリト琴ト好メテ餘音今ニ在國トシテ傳リ能ク変

トシテハ後考ト出セリ

那珂郡ニ高部村ありトシテ建部の地ナリトヤ知ル屋トシテ又

佐竹盛長高部ト氏トシテト蓋トシテ地トヤ又常陸介義春

小瀬氏ナリト是ハ小瀬村ト食色セリトヤ知ル屋ト

那須國造碑トシテ蓋石トモトシテ此碑ト

トの始延寶四年四月の以岩城の傳國頼トシテト人下湯

津上村ト住ルト同郡茂武郷小口村梅々平大金重貞ト

去人の宅トシテト此石碑あるトモトシテト此碑トモトシテト

始ナリトシテト重貞ヤツトシテ石碑のモトトシテト此碑ト見

ト那須記トシテト書不記トシテトの後天和三年六月

西山黃門源光國の那須記序後ありき。此碑のこと
尋らば、此貞享四年の秋、儒官佐々助三郎宗淳と云
人碑文と考へ、此なり。此より元録四年春

有司小命と云、此一小堂を作り、碑と其中小安と云、是
して世人始て此碑の堂と云、貴い屋敷と云、此なり
一六、われど此碑の年、猶小永昌とあり、異邦の年、猶な
むと云、此後人疑ひ、其をいふ、阿ふに、いふ、其辨論さ
くあり、此と云、白石先生の考、小永昌元年、朱鳥四年也、朱
鳥二字上頭一點、皆碑面剥落之跡耳、據史、持統三年、歲

次、己丑、實朱鳥四年也、明年庚寅、正月、朔、持統即位、先是、
改前朝號、蓋、其攝也、と云、又、山崎久卿の說、猶彼
地、古老の說、此碑と始て、是、一、つ、何、小、旅、の、神、驗、此、地、小
來り、碑の文字、詳々、と云、何の、ぬ、ま、ふ、や、思、ひ、ん、自、を、と
り、して、何、ひ、文字、と、い、ふ、一、補、ひ、刻、せ、一、ず、傳、こ、り
こ、し、ぐ、り、此、旅、宿、坊、向、の、年、代、記、と、見、合、せ、う、傳、は、朱、鳥、の、永
昌、の、字、畫、似、つ、と、支、干、と、と、を、強、て、異、邦、の、年、稱、と、作、り
し、や、る、屋、一、つ、此、ハ、永、昌、元、の、三、字、結、体、款、斜、し、て、他、字、亦
類、せ、凡、今、搦、本、小、就、し、檢、も、く、小、昌、字、全、く、鳥、字、の、畫、と、存、

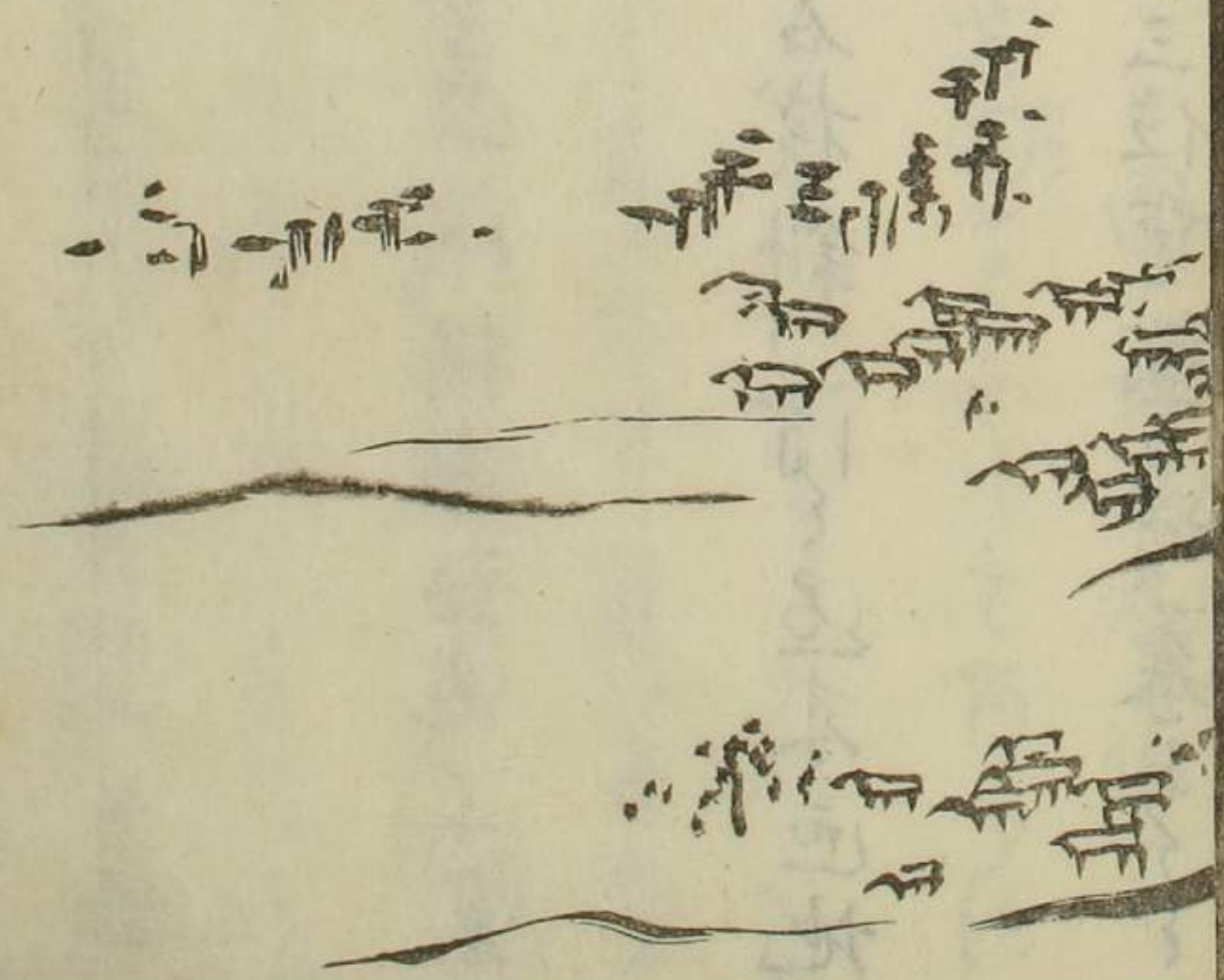
元字隱々四字の畫見百この説を係せりやふいしく朱を
なすし明をうく神ハ佛足石及び多賀城碑多胡郡の
碑より先立ちて古く正しくして我 邦第一の古碑ハ
吉田神社今茨城郡小属せり一大社なり昔時ハ那珂郡
小属して吉田郷と稱せり古名蹟なり再考し屬し
本邦の極樹ハ異國ニ乏しく崎嶇來船の使者と稱賞
せり今水府大城の東北小澤水堂あり明徴士朱舜水
先生と祀り先生生平此花を鍾愛せりゆへ今祠堂
の傍此樹と植花時の美觀清雅なり水府中の勝境

先生の事蹟人々皆
先生ハ今此の如しぬ

梅樹ハ本邦の名産にして古來

花より稱し賞讃し來たり往時渡邊幸庵海客
のとき洪州西湖に此花小似しと云ふと云梅は
昔時本邦の松とて傳ふに移り植て日本松と稱す
るも往古人の記載も西湖に彼去る名高き遊踪の
地ハ本邦の梅花を移り植りて因に云津東江田久
集の中不渡邊幸庵の壽字の事記あり其説不渡邊幸
庵の壽の八百有餘歳の老松にして人ハ此ハ房總の地ハ
本姓して壽の字を書いて人の乞ふ應せりといふ

雲水淡迷之日色
 猶如風滿珠玑光景
 人立蕊珠宮
 洗心人



雲
 水
 淡
 迷
 日
 色
 猶
 如
 風
 滿
 珠
 玑
 光
 景
 人
 立
 蕊
 珠
 宮
 洗
 心
 人

載り、藍田氏より事實小高^高誕^誕する事後よ^後てり
梅樹さ^さき^きま^まれ^れま^まず^ず你^你生^生の^のと^とめ^め安^安の^の本^本れ^れる^るも^も之^之
つ^つは^は世^世を^を花^花の^の梢^梢と^と四^四方^方の^のな^なか^かと^とい^いと^と優^優ふ^ふが^が由^由聊^聊
ふ^ふ拙^拙作^作と^と録^録し^しぬ

山雲滲淡水東西三五人家点一溪猶有韶光不寒
乞梅花開處午雞啼

侵晨谷口步烟霞水碓春邊石棧斜
雪高風吹落白梅花

金井野村は今小松寺あり小松三位重盛の墳墓あり

少^少り^り余^余未^未だ^だ其^其證^證實^實然^然然^然と^とも^も本^本國^國大^大椽^椽國^國香^香よりして
平氏坂^坂東^東小^小支^支蔓^蔓と^とい^いふ^ふも^も其^其因^因や^やふ^ふし^しも^も阿^阿比^比尼^尼

天智天皇七年常陸國より生角馬と教もるゆへに
文化中久慈郡大生瀬と云村の人家小馬あり角と生せる

し^し其^其少^少阿^阿比^比尼^尼の^の後^後馬^馬郡^郡廳^廳は^は名^名に^に此^此點^點
檢^檢阿^阿比^比尼^尼の^の傍^傍小^小二^二角^角の^の白^白と^とい^いふ^ふの^のと^と生^生せ^せり^り其^其の^の

狀^狀梅^梅の^の如^如く^く長^長サ^サ一^一寸^寸二^二三^三分^分あり^りより^り一^一寸^寸ふ^ふ觸^觸て^て浅^浅む^むふ^ふ
角^角の^の阿^阿比^比尼^尼の^の内^内の^の起^起ま^まる^る事^事の^の也^也

文德實錄小天安元年二月乙丑常陸國より白鹿と教

せりる見白又近世南郡四澤の地より白麻と出せりといひ此の
 白麻学ふまことふ稀なり今山中該處白麻は毎くも
 とくあり文化中本藩 増子毅齋先生より御中より主
 宰たり先生好學且嗜武より郷中と治む陽春有聊
 の名阿りこれより郷中毎歲秋夕の際人夫と催
 山野と跋渉し猪鹿と狩るこれ狩ふ出る事獵師者の
 課役より此を指揮する支配頭と郷士といふ郷士の騎
 馬の武士より其職最も炮術と帯より其先皆武藝
 家なり阿りひ狩あり増子先生竊ふ出遊よりひ彼の操

師と帥ひて山林奇嶮の地ふ馳驅し自身大なる白猪一頭と
 獲り野つりて此處を以て障泥と名し今ふ猪よりひり角
 武彌と名し

往年久慈郡下野宮より村の一農家阿りときと殿と掃
 治せり一小石阿り其色黄よりして粟の如く粟粒より馬
 糞に接りて出ると云々は往くありつる馬糞石と云々のな
 同郡小野上村より山方村あり常陸の國東南は皆平廣
 よりして此の二村より以北山谷橋續より因て見下りて野
 の上山方よりいふはけり又舟生りて

村小坂あり平部と云尤と古名なり

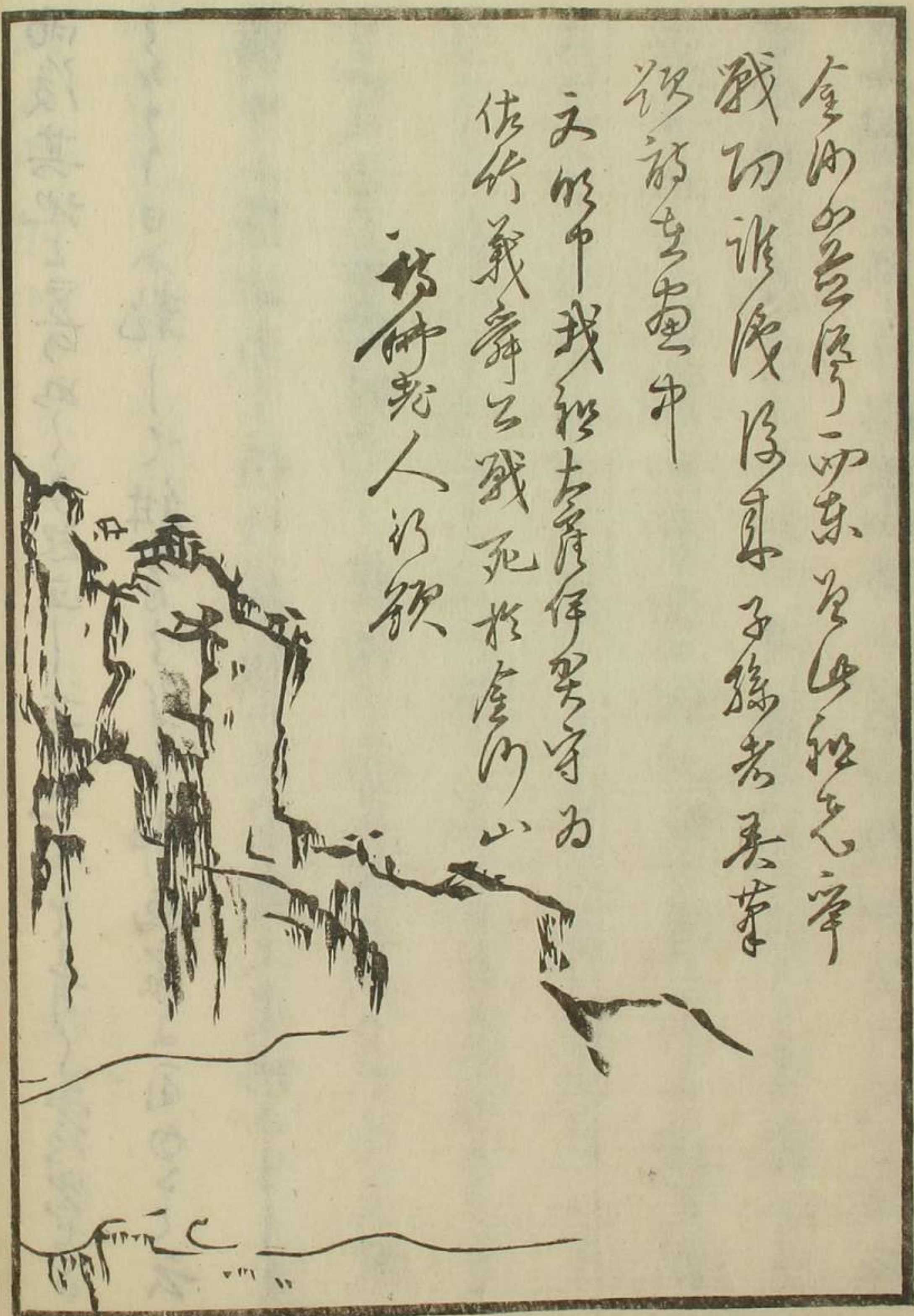
又部垂村小甲教養明神ありこのはくしあり本紀にもや
今宮居御造の古帳一冊と存せり始に徳川佐京亮と大
黒せり當時何事の人ありすと詳を以て村長立原氏
最も意の家として古き甲と所在せり製造精妙なり
この近可是の家

上より本坂と書あり此村は佐竹義隆の三男四市義定
の合邑せし地を部垂氏と稱せり
又石崎村あり天女的小社あり社地より紺青と出せり
えいじやう

雨後其地上豆の如くして起立し其色を以て青く雨後出せる
と云ふ日小乾して紺青となりて即画家は田の如くと云
隣里小野村あり佐竹義隆の三男義久采地ありと
のし又宇留野村あり義隆の五男義長合邑せし地
なりと云ふ又小場村は義隆の二男義躬合邑せし地
又義仁の二男常陸介と稱し戸村小合邑し戸村氏なり
東金砂山久慈郡高倉天下野兩村の境あり壁立数
百丈松杉蔚然として山上神相佛宇あり東清寺と
しと密宗あり治承四年十一月源頼朝佐竹氏を攻佐



高如推之圖



金州山色清而東為少壯志
 我切誰後及身子孫者其
 欲訪在畫中
 文以中我知古意存其守為
 佳竹義舞之我死於金州山
 新研老人詩欲

竹秀義 金砂山の柵を擧て、池を拒く頼朝下河邊行武
 政義土肥實平和田義盛土屋宗遠佐々木定綱等盛綱
 熊谷直實平山季重等数千の兵を率ひて攻我、金砂
 山頂峭崖絶壁要害天下小川由秀義率と勵し、
 我と飛矢雨のこゝに鎌倉勢多く被傷う諸將兵を勵
 しく進めしむる仰て天小撃ぶつりぬく人痛々馬疲れ敗
 走せり時、秀義の叔父義季歎息すして廣常の存
 謀し池義季内より應へ廣常おどり鼓噪たけなわしく籠かこり
 うむ忠義頂命たけなわ秀義皆とし花園城に入る敵遂に陥おとす

西金砂山久慈郡土宮阿内村あり石壁数丈其奇嶮絶峻
 云屋々々神祖あり山王日吉神あり東金砂と曰神
 あり昔時佐竹氏の柵がらを築き、東西の二山河池を是
 たりと志し、柵もふる西金山なる屋き、此金砂神七十
 年一度の大祭禮あり七年一度小祭禮あり田樂の
 行事あり田樂ハ古代の遺風ありてありあるとあり其時世
 のさま推して知る屋き、そのあり今より長ら池ハ後編より出
 同郡下藤田村あり佐竹義實食邑セーり又南海出
 又佐竹義茂食邑一北酒出佐竹助義食邑一河池

之地名を氏より名ふるがごとし

同郡上河井村に枕石寺あり浄土真宗より昔時高祖親
鸞よりて日暮宮を乞り不肯して門外に祈りし其夜
深更親鸞の身より光明を放り主人大に驚き其道德
不可思議なるを感服し是より弟子となりて敬事せし
なり今其枕石を存せり一説に此院を同郡大門村なり
し此地に移り来るも之を云院主西天師ハ述世の碩学より
尤も書ふに六書八軌の記を妙を得たりと云り余意
知友なり今既述せり惜しむる

多珂郡森山村の東より原あり薙尾原と云り又二箇原
と云り石那坂の極麓此地に後醍醐天皇建武二年陸奥國守
源顯家勅を奉りて八千餘騎を率ひて来り佐竹義教に
此を拒て我相馬南部等先鋒にて進み佐竹氏大に敗走せし
ところや此境界に活水あり水白沙中より沸き出せり後人
此を歎ふに如龍薙尾原の泉川と云る也のあり誤記はし
彼の薙尾の原ハ山城國桃川なりと云

花園山今ハ多珂郡に属せり佐竹秀義金沙城と云る陸
奥國花園城に據りし此地なり花園神祖あり土人

相傳此神征夷將軍坂上田村麻呂より今滿願寺と云
天台宗あり其土高峻東海の表に御出に一腰懸あり
同郡諫訪村に石窟あり凡廣サ丈餘あり其令事四五十
歩許あり活水あり窟中より流出せり其奥幾許あり
初之うら

同郡石那坂に雷断石あり圍三丈高五丈許土俗相傳ふ古
此石日小長し心が天とていふとせり天帝み祀とて悪
みまひ雷とて二つ小壁あり其一とびより今同郡河
原兒村にありと云

久慈郡下野宮に近津宮あり面豆惶根の二号と祭ると云今
上野宮町にあり同社あり町付と中の宮と合せて近津
三社と云郷中の總鎮守あり一社あり其社神名帳に
載る稲村の神社と云今上郷村に稲村といふ地あり
ありし小祠ありこれ其舊跡なりと云一説は奥州白河
郡棚倉城北に馬場と云地に近津神社あり又より南二
里餘隔あり矢槻村に又近津宮あり河地を大社とい
古名蹟あり是を都古和氣神社と云馬場と上の宮と
矢槻と中の宮と今久慈郡近津宮即下野宮なり

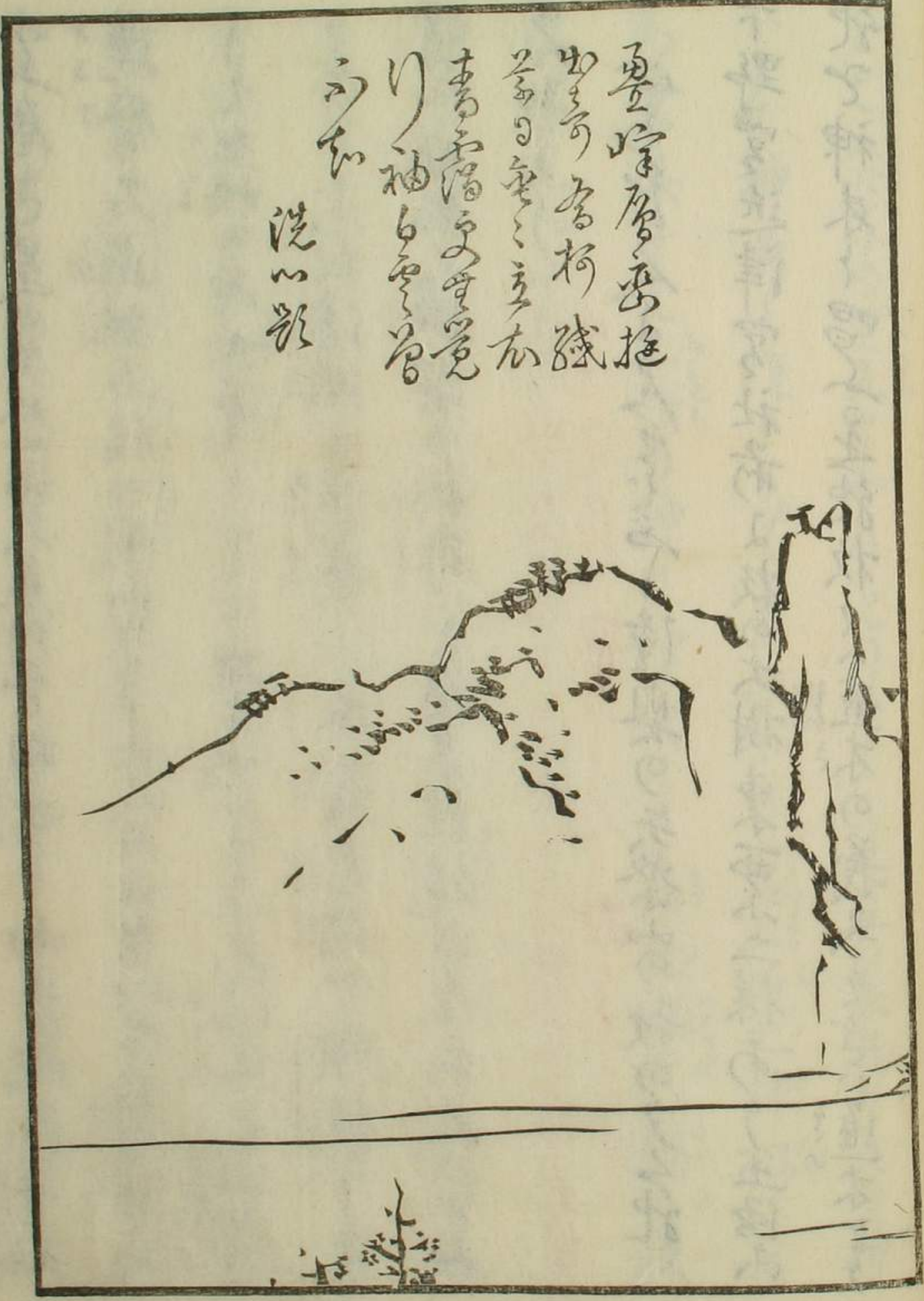
すゝちういあれと是の都古和氣神社白河郡不属せ
蓋一往古ハ此の下野宮を白河郡不属せりありしや
前ハ具論せりどく久慈郡白川氏の領せりありし
又岩城氏を領せり天正の頃より一々佐竹氏より
是年の沿革より一々遷移せりなる屋一今其地方を
すふ馬場と上宮と一矢槻と中宮と一今の下宮を合
せしニ社と也ハ此下宮陸奥國白川郡不属せり
一々人白川氏佐竹氏と志あり一我事あり一
彼此敵地たりせむのニ社を割てハ海山と界と一今の

上野宮不宮古と造立一町守も也近洋と新創一下
野宮不合せしニ社と一佐竹氏の祭地なる屋一因て
搦今の下野宮村ハ奥州と常陸の界なり七折坂と一
嶮坦あり坂より下ハ久慈川不一ハ寃責の要害なり此の七
折坂より以南と常州と一此より以北と奥州と界と分する
かゝる一今其七折坂より一北一里許り一矢祭山と
つふあり兩山久慈川と夾んと屹立一尖峯危石流
水と紫經一幽絶の勝境なり水際僅不棧渡あり一陸
奥國ハ今是村と關岡と云又下關村あり兩村久慈河

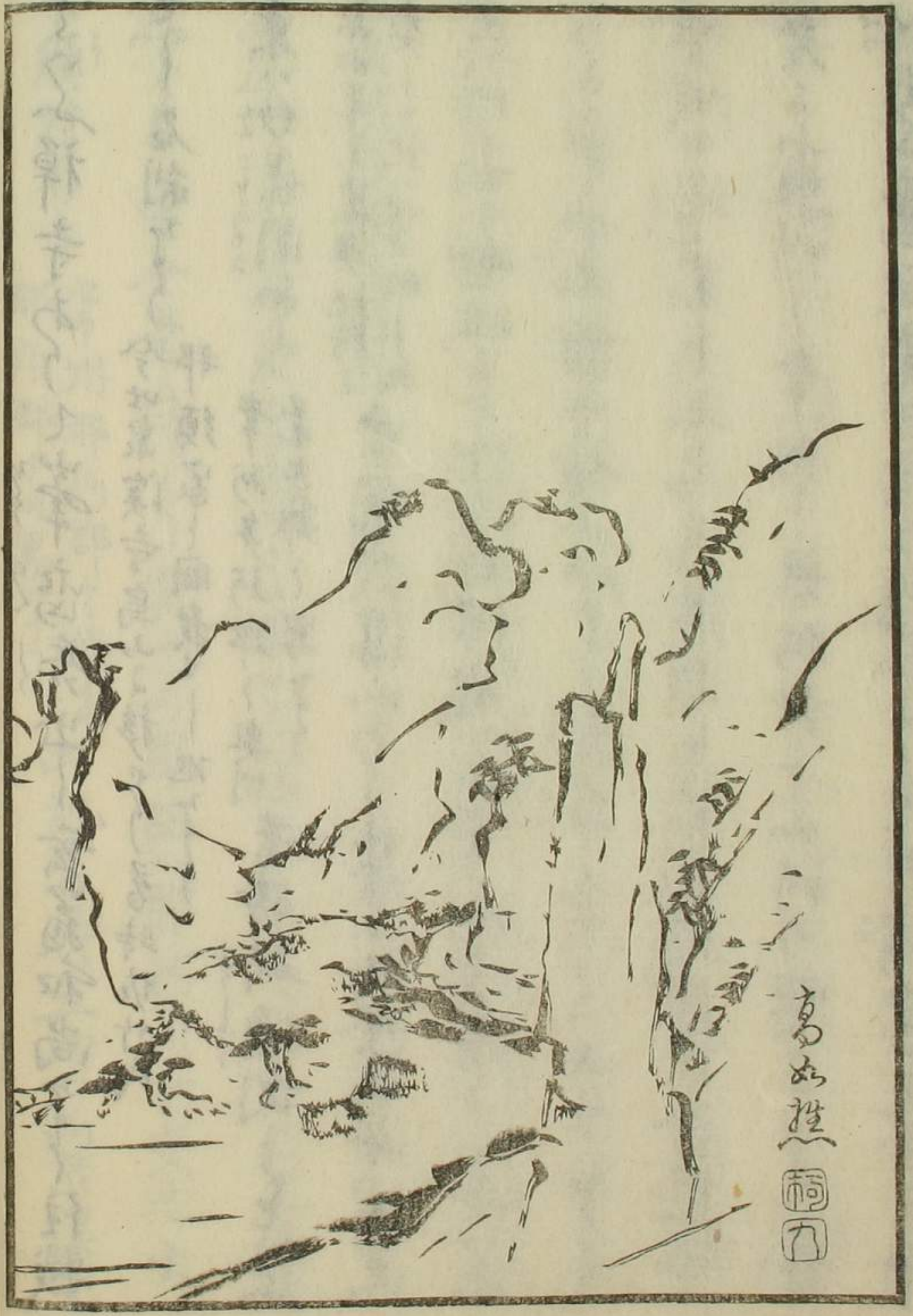
と夾めり此地彼西去云岐中の巫山なる處一矢祭神
 社あり相傳源義家の奥州征伐の時北に向て矢を放ち
 るひ一がー此の地を今天祭山と云矢の落る地を矢付村
 と云即ち近津宮と祭神を云りり今天付村近津社
 内は寅卯神あり 是永承六年辛卯より康平五年壬寅まで
 前九年後三年の年数と合せし祭山なり
 又白河の関と稱せし此の地なりとも之り此白河関なり
 の説ありといつ此の是なる事と詳を後とつとと上古
 八志とも中世常陸より奥州の界西に郡河川と夾て大
 木須村あり 常州郡河郡と野お
 郡須郡との界なり 此地昔時五峰山泉溪寺

とつ子禪寺ありし峯山秀出と云翁和尚なり住職
 せし名刹なり 今此泉溪寺烏山に移せり昔時佐竹氏
 郡須家と關我せし地なり
 東八勿来岡あり 常州多珂郡と奥州
 桑多郡との界なり 昔時所通関とも云ふ
 赤水先生東奥紀行に 赤安一と此は此と略しぬ 中間八海山あり林唐小矢祭山笹岳久
 慈河等の嶮岨なりて白河関を置しなる處一上世八志
 らも中世乱離の時小當り我亭志むく止りや
 邦城の境界を志むく遷移せざる處一今地方を
 考る小奥州と常州と界河此を山河の嶮なりて區
 別ある事従来自然の形勝なりて所謂天分と云

夏
 涼
 層
 雲
 拖
 曳
 夕
 陽
 紅
 似
 錦
 霞
 散
 落
 滿
 山
 阿
 羅
 漢
 手
 持
 念
 珠
 笑
 吟
 歌
 可
 知
 洗
 心
 歌



二八



高
 如
 控
 柯
 柯

十一

ふ屋き星の矢祭山久慈川と相挟く両崖屹立竹笋石
達磨石飛跳石猿の開山をく土人の云習いせる景勝あ
りて巫峽の神女峯とを云屋き地なり又瀑布石窓な
り多く老松溪隈に偃蹇し菰蘿岩間を繚繞し春
曙秋晚幽人騷客の徜徉と屋き佳境なり何人うずみ
え歎あり
心あけ人よ見せむや陸奥の矢祭山の秋の夕に
下野宮近津宮社前より板の太樹東西二株あり土俗云
此で神来と唱ふ是れ板の直木の義又まがひ道木なり

と云此木の生長をよきとせのふして正直の表物なりを神
木とて神前より植るといふ古き文に石上振之神搦ト云
芳葉集より三諾の神乃神板とて神之祝我鎮高板
原ナト見くべし

馬場近津神社日本武尊召まら了鎧一領あり今神庫
に存せり其精造寶ふ神物なりと云或人云甲の鎧に比
し此は下小粗糞なるなり河等の事なりや初屋に
大子村は古記大子なるなり古城跡あり芳賀河内守始に築
りいつの頃や白川氏より并せり此久しく白河氏より属

せりと云後石城氏は英やと池嗣と絶と云まより石城氏家
臣としく守りしむ事四十餘年して佐竹氏も英やと
池城遂に廢せりとより城跡は長松一樹ありて偃蓋堂
翠高く雲霧を拂り奇古愛と屋一然るも御中
の土俗常は松根を削りて灯燭を充つ山村比屋皆然り
愚民やとせし池を此松樹と削りて池り往時郡宰
増子先生是の樹の彼ういぬ枯池果なんぞと惜しむる
竹とせし垣と此の樹根を圍み愚民のかくすも疵
つくる事と禁しよひし人遠き山とこれ此の樹を

いつとなく破れぬまよりしりしこの樹を遂に
池ぬく山民の馬し事情は暗さあま池を
やうもや凡事物の盛衰興廢皆是自然の數あり
まや山下は鐘の淵とあり土人相傳ふ城陷ゆるとき
城を芳賀氏才と授せしをよりし此川源は海山は
西より出て下野國那須郡須加川とせし久慈郡上
金澤開田山田高岡上沢の數村を經て大子ふり
久慈川は合流を押川と云又磐梯川と云此川は
流しし舟楫の利ありしとせし數を堰とせし

のありて流れとて溝渠あり田疇よとて入るも
此の元りの敷村はかと旱魃ありとて稲梁枯
槁の災と免る是の水源ハ溝山の大林唐より出て淵源
あるゆなり

大子村ハ卧雲山永源寺と云曹洞宗あり開基と源庵
宗永居士と云是本藩宮寺氏の祖なり一巨鐘あり
益子氏傑山秀英居士の寄附なりまゝ當寺とて
住職入院の式ハ余う家より山内入院せる古例なり又
白雲山あり愛宕山とて云將軍神と祭れり此の神

川山と云村なり益子氏の祖移り来るとり上古ハ十二所
神鎮守なり又天神の社あり願誓寺と云浄土
真宗あり又浄光寺と云天台宗あり祈願所なり
まゝ彼驗文殊院あり

比叡村南台山と云峻嶺あり嶺上半なりして持方
村なり此奥ハ安寺村あり此二村ハ高倉村ハ属せしは
本國中随一の深山なり土俗の質朴太古の風あり
近きはまてハ文字も通せざりしと云なり余往時星のさと
貉窪と云やまよりなり

詩人到此古來稀ナ但不詩人ナ到稀ナ但有詩人堪ナ寂

莫ナ不堪ナ寂莫ナ郭公飛

郭公一名畫胡也其地有桃源の云々

比叡村長福山あり山頂大悲園あり又三光院あり幽勝の

地あり山下は長福禪院あり郷中の名刹あり河

回流ありまがらうして南は西さかぬ金村あり温泉湧出此地

と湯沢と云男女法病より一畠を疥癬の妙あり

紅花上古より常陸の名産なり一舊記に見ゆ久慈

郡大田郷と隨と一郡珂茨城多珂郡皆出せり海

内紅花と出せる地多し一とも水府と上品とも然る

近世人情浮薄して専ら利を先とし製造粗雑を

ふり凡産物の天より賜ふをうして乃ち是天物なり必

精製衣と要しと屋

紫山子とつれをの本邦のまじりて異國をわたりて稱呼

せり又草人留人をいふもふりて葛原詩話に

見たりまじりて山中鳴子と云ものあり即ち是を遊あそ

り余山村も遊びて

藤蘿遊路な難分一搭溪村只隔雲燒炭烟從山

腹起驅禽聲自嶺頭聞

紅日入林鳴暮鴉半山茅屋繞溪斜草人相對
無由語一語秋風落麥花

昔云上古ハ綿ナク一ニ麻布のミナリト書記ニ天日鷲鳥

神為作木綿者云々懸掛木綿云々又木綿袴ナト

見タリ又凡絹絶絲綿布並隨郷土所出ト云々又一戸

賢布一丈二尺ト云々類聚抄曰唐式云賢布漢語抄云
佐与美沼解ト是ハ麻布ナリ以上の意

記と考ふ綿布と麻布と分たり上古ハ綿トソウモの

概々ト云々ト云々云々凡尤近世の綿ハ吉貝草ト

て上古の木綿ナクハ中世より蕃船の品ト云々今地

方と考ふ昔時常陸より布と調進セるとソウモの麻布

ハるヲ疑ナクモ一トモあるハ今常陸の地麻を生セ

吉貝草ハ別ト上品ナリ綿ハ總トて暖國の産トて北國

トモ池ナリ蓋一本邦上古ハ綿ナクト云説ハ北國の

セツクモ疑ナクヤ

東鑑ニ治承年中源頼朝常陸國トハ隨濱大窪世矢

赤の地と唐島へ奉進する一見たり大窪ハ多珂郡大久

保村より大窪天民氏の父宗春此地より久慈郡池田

村橋岡氏の家へ婿たり先生と生めり後宗春は

戸より来て醫巫と業と〜江戸に終じり足すり〜先生
江戸の人とせり其先武名の家なり今儒ととつて
起家〜詩名大よそ鳴

後深草院建長年中笠間城主前長門守藤原
時朝ときとも唐書とらの社小宗板一切經と納る事ありせしと
その秘ひそなり余う友人好問堂山崎氏此零れい本阿毗達
摩大毗沙論と所莊せり卷末よ時朝の題名あり距
今五百七十有餘年豈ふ奇なりけや今此ふ時朝の題名
と摸出〜い〜この好古のたま示と

卷之十一 一切經内

遠長七年し 卯 見長唐書社遠信養

幸州

前長閑益任行徳朝は時朝

笠間

此のゆきまゝ新和歌集第五叙教と見えり
都野宮秋綱の家より寓居の
間のおやなり
呼書名
氏卿字

唐島の社いへ唐本一切経を借養し待つ時日ころと
あやまんはうさうさくも空を祀るともかく供養

とゆゆ〜

今もや心のやもを祀ぬん社代の月影を〜

藤原時朝

の〜

千もやの社代の月影あつて心のやハ今もを祀ぬ
考國誌云後五位下長門守兼左衛門少尉藤原朝臣時
朝食は笠間地因地為氏時朝出自藤原道兼善和
歌云こ池宇都野宮の支流なり又按東鑑笠間左衛

門或笠間判官或長門前司ナト往々所記非一文永二年二

月九日己酉丑刻卒年六十二云今古碑在楞嚴寺溢晏之

海云大居士ま九月十二日卒と見へり年号と矢せり

何れは是なるや今も其説を所也存せり

正末湖那珂郡村松村あり此湖鯉魚景と多く味も

ままきもの上品なりと云又鱧うなぎ味尤まなりと云

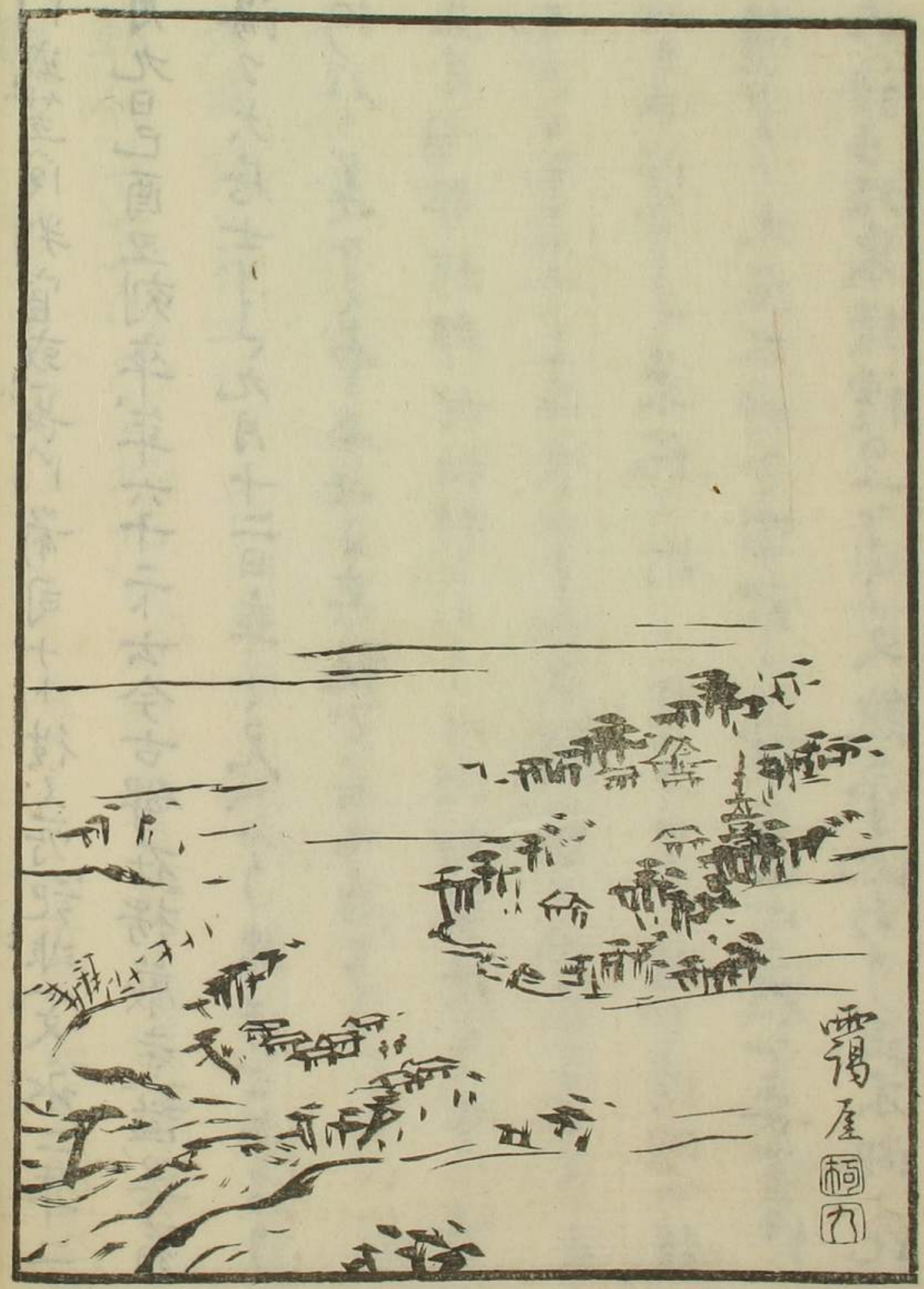
此土平沙し東海に近し一望千里と極む清涼の佳

境なり天照太神を祭祀り傍に虚空蔵と安置他

の池も坂東須禰の二なり又飽と守池あり正末湖に比

人去松梢鷓刷翎魚跳柳岸
 谿窺汀烟凝渡口蓋初白霜深
 山邊楓失青吟杖日斜行且遍
 蕉衫風冷酒將醒添來一箇新
 詞家描得天然好畫屏

洗心題



雪得屋
 柯
 内

並なやうう此海邊東南、廣島浦北な勿な来こ綿連わたづら一平
曠あきの地ちより殊ことに魚鹽うしおの利とくあり常陸とちぎの中央ちゆうおう那珂郡なかと
して那珂の邊へに比ひ並な一遊あそばの地ちなり

完倉村ありむうう一河内郡かゝいよりして今いま新治郡しんじに属ぞくす
此村このむら名な倉くらの字あざあり蓋かき一上古屯倉みまぐらと設たて一地ちよりや城しろ
跡あとあり菅谷すげ隱岐いんぎ始はじめて築つくる喬たけ孫まごとて居ゐる天正てんせい
中ちゆう佐竹さたけ氏し豊大とよおほ閤かの命のみことと受うて南郡なんぐん三十三さんじゅうさん氏しを滅めつせり
菅谷すげ氏しを位ゐと失うひ越こ前まへ不ふ奪だつと云いふ此こよりして佐竹さたけ氏し
家臣けあしん大山おほやま田た刑部けいぶとて此こ城しろと字あざなりむ後のち河内かゝい又また徒たふ

及および一城しろ廢たふす果はつ恭こう寺てらと云いふ曹洞宗そうどうしゆあり郡中ぐんちゆうの名な利りに
此山このやま内うち竹たけと産うむる尺せき四五寸四五すん餘あまり

玉造村たまぞうむらあり行方郡ゆきかたぐんに在あり又また新治郡しんじに属ぞくす
大塚おほづか氏の支孫しそん行方宗幹ゆきかたむねたけ始はじめて築つくる其孫そのそん小高こたか六郎むさし元暦げんりき
年中なちゆう源義経げんぎけいの先鋒せんぽうとあり屋島やじまの軍將ぐんしやう能登守ののとうしゆ教経けうけい
と血戦ちけつせんし討死うちしせり源頼朝げんらいちゆう其忠死そのちゆうしと憐あはれみ厚あつく其子そのこを
撫なむるむむ又また後のち累かさねせ是こゝに小居城こゑしろ一玉造たまぞうと一太郎いちたろうなる
之これの天正六年てんせい六年戊寅ぼつじん十二月じふにがつ廿四日にじゅうよっぴつ死しす堯たう永源えいげん舜しんと法ほつ傳でん
其子そのこ与左衛門尉よざゑもんゑい重幹ちゆうたけ天正十八年てんせいじゅうはちねん庚寅かういん二月にがつ九日くにち佐竹さたけ氏しの

為小大田城のありて殺す能遂に嗣と絶つと云法名我秀
常見と云

筑波山の常陸第一の古名勝として遍く人の知らる地也
且名跡志等學を行ひ能籍甚はれ今是を昭しぬ

足尾山あり又葦穂山といひ此山下の南村と尾谷と
の二瓦谷山人と稱する醫士あり小河原氏といへ其先子
葉黨の交流して武名の家なるより山人博學篤厚
よりて醫術の秀しく著述を教部ありて學を行ひ能
其學光莊仙佛の淵源をり蓋し本邦道學の始祖たり

美葉集の筑波山就智の多きを詠り今南台君田がこれ
山中彼大智より菓と學ひ予あり余山中に遊ひて詩を
賦し嘗て是の事と記せり

過畫田畠不見那合勸花下水潺湲隔林偶聽木上語
前政朝來就鳥獲猿

路從綠水漲邊傾隴與白雲橫慶平一鳥搏風枯木
折深山日午採猴驚馬

鳴寄故城行方郡に在る崎の左衛門始て築りて應永
中鎬倉持氏小從ひて氏憲の為小逐能岩寄大炊助

駿河より持氏より従ひ我功あり子孫世々此に在城
天正中佐竹氏の為不殺に此丘墟と云ふ

同郡堀内村小故城あり慶長元年佐竹義宣の家臣
小實大將始て築り同く七年義宣相おと従る
よ及て城廢せり

武田古城同郡に在武田源民部大夫始て築り民部
の子と淡路守とて天正中佐竹氏の為不滅

同郡板来村長松寺と云西河禪あり鎌倉建長寺
と同開基なりと云一古鐘あり相摸入道高時の寄

附り又十六羅漢あり唐の買休の筆せる

雪舟の画る寒山拾得其他源頼朝の植るひ一臥就
梅なるあり一大名刹なりと云一屋

此村小宮本尚一節なるものあり名球字求玉茶村と
號せり博學篤厚の士なり其先武名の家なり

郷中の甲族なり宮本堂村氏の
弟なり又屋上不能望山あり

湘江の斑竹斑竹蘆蘆雁雁又樹楊梅紫荊の數種と植る

西山黃門源光國公亭と評築るをひく殷湖と云
つけまひ平生遊覽せり地一なり茶村の裡

西の...の...此亭を賜ふ...云霞湖亭の二字
 西山の清筆...着色の座の繪あり...
 其他明人夏仲昭の筆...竹の画及ひ...河葉の澄泥硯と
 も同...云此家...牧溪の画...
 と所蔵せり...虚堂和尚の額あり...大堂國師の題跋
 あり...一休禪師の模本...あり...紫野大徳
 寺役僧其他狩野卷朴の添燈等あり...
 此地舟船福轉...妓橋あり...常陸國中の小都會
 あり其他古名監多し...再考...後篇は様も屋

同郡延方村あり文化中本藩小宮山先生嘗て此郡中
 の宰あり先生博學温厚...下民を教育せり
 實に近世の人材あり此地に學校と設け且つ 聖廟
 とて建る...此境長松蔚然...雲浦...
 一聖胸襟を豁...山下蓮池あり...矣親あり
 友人澤田氏此地来り學校を預けり又此村に普門院
 と云密寺あり一大名刹あり地蔵堂あり其人遍く
 崇めり...余往年此地より板來牛堀等の地を過ると
 平原盡く又高丘臨水茅檐住得幽黃鶴一聲出

巢去香風習々落松球

又此村曲り松とくふまふ一人あり余少時此地ふ遊ひく
勿友西三輩と楨取及ひ佐原ふ舟遊せり彼友人
聊うめありて此行と果した詩一章と寄せり

相約佳期山豆福後人間風日隔勅娛同君今少蕊
蒲裡花柳春光時有之

此友人既よ下せり彼此一時まこ哀しお屋し距今三
十年恍として陽世のこ

又田峯氏あり學と好し醫と業と其術は廣し
其隣里よ穴注木幡籠子なるものあり性温雅碩
學の名あり延方學校と主宰せると云

茨城郡小川村よ古城並あり園部兼泰始て築あり
兼泰の子孫宮内大輔佐竹氏の為ふ滅せり佐竹氏
の家臣茂本と総守とて此城を守りしは後小戸澤
右京少進居城せり此築なりと云午綱城ふうつふ
及て墟と云

同郡完戸村ふまご古城あり完戸家政始て築あり八
田知家の弟四男と完戸即家政と云源頼朝は佐

建曆三年五月和田義盛兵を擧ぐ北条義時を攻め家
政宗族知重と同一く北条を救ふ義盛の子朝夷名之
即義秀りよ力絶倫勇名天下よ是の日朝夷名
力我しと必死と以て志とせ故に諸將其鋒先と避け
懼おそるる鳥雀の雁かり驚おどるる如く朝夷名深く琵琶
壑橋よ入る獨り家政進んて朝夷名と我ふ遂に命
と墮おせり世傳て一時の英雄なり其孫世々此城に在天
正年中佐竹氏の名ふ亡ぬ志しり後和田河内守此地ふ
封せり此更に羽州に移りて城廢せり

同郡小幡村い又古城迹あり八田知重第三男光重小幡小
采合し小幡氏とて光重の後中務をなすそのわたり夜大
洗磯前明神と拜せ江戸但馬守兵と出りて路と渡り
中務命と改め小幡氏遂に滅せ江戸但馬守家臣出
雲とて守りしむ出雲死す子助兵衛代りて居たり
天正中佐竹氏の名ふ滅せ助兵衛子あり三十郎と云とて
石塚村あり茨城郡に属せり古城あり佐竹宗義始り
築り其先刑部大夫義篤の第二子此地に合邑し石
塚氏とて宗義の孫大膳義胤北条氏康とて守都

野宮の地は我ハ矢ハあさりて死せり義胤の子義衡佐竹
氏は従く窪田は我ハ命と降せり義胤の子と義慶といふ
義慶の子と義國といふ源一郎と降せり天正中佐竹氏
常陸大都督とす義國とと片野の地を遷し東中
務義堅と石塚城を封せり佐竹氏國除せり死し後
まゝに廢しぬ

此村茶師醫王殿あり古名臨るす一喬一ハ五考一
後篇は録し置し

長倉古城佐竹左衛門尉行義始ハ彦伯而と云又別當
と稱せり二階當下総守頼嗣の女と娶りて六子と生あり
長と二郎貞義と云後別當と稱す常陸介は任り元弘
年中遠江守兼上総介を轉し後難鬘して信とす
上総入道と稱し次と二郎義綱といふ是二郎義綱
此地を始し城と築きせり居城し相就^{かた}ふし世に長倉遠
江守と云り應永年中佐竹義盛死し義盛一女子
ありて嗣なり上杉安房守憲定の第二子と養はて嗣子
と其女子とありせり此と義仁といふ右京大夫は任り
鎌倉あり而る小國氏義仁と君とせる事と皆んせり

是れ養子として先君の種ありし由りなり
由り山入師義子興義と上総介の位に立り君と名
鎌倉持氏とて怒りし石松持國として師と帥と
佐竹氏と伐つ國人興義と奉りて大将と長倉城
據し此れを拒く持國城を圍む攻戦數月を拒
對當歲餘佐竹氏糧食已乏しく籠城危より
國人相議して云義仁立君なり興義立國なり君
なり國なり此れ佐竹氏の立るなり國と君とを
なくして佐竹氏立びハ不忠尤も甚しきなり君は

とも國に存せんは遂に石松持國と盟ひ義仁と立
君と興義退り義仁は服し義仁は國人の怨あり
んを懼れ此れ無義と厚く遇し敵なく此城狭
し山河の險矢石の衆乏しとも其堅く久く
存るなり豈に奇なりや

大岩村ハ岩あり數丈地上より突出せり由り大岩の名あり
村長竹内氏古く此地を領する一屋後古來赫然たり
一夜のありし何やん郷音あり其韻僧寺の本魚不
似たり是れ乃ち古く之をハせる狸のまじり鼓

かくある一又下檜沢村は邑長小室氏あり屋後
 松林叢中毎く此音せりなり此兩家ハ何れも彦家
 一々郷中の著姓なりかゝる奇事と記せるは怪き
 ところの譏りある處くもあはれと云はれり余ク親
 屬よりて見るとまことに可笑しき事なれり
 竹内氏嶮谷老人と号し又愛筠亭と號し此翁也
 と善し喜人なり今既よせとされり小室翁親
 魚亭と号し文雅と好み風流の名士なり老健今亦
 存在せり小室氏家の紋日の丸と又九字の井紋なり

其先武名の家なり何の故なり翁の紋を用ふるは
 此郷古くの唐島郷なり小室氏ハ唐島宮の氏子
 なり昔崇のあまより此紋を用ふる處
唐島の相
官ハくみ
のありて翁の
紋を用ふる 同族を羽州よりて今佐竹氏は之を
 用ふるなり

本邦山村水郷秋夕閑適の情と詠して三夕をれを
 して今午なり是れ明人謝在抗々海風苦雨も一たび
 點破を經池を佳境とせり
 余 彼此の意をよきとくま巴調一章と詠せり

間中位杖且間行雨尚晴来風又清斜日照山人
鋤歌榭牙枯木一鴉鳴

余御里不標の大樹あり也ありて此樹を伐せり余此
樹を乞ふ得て材とせり一丈に五尺許りて雨膠不
まの歌此を云うつろまうらりなり
せり木エ大よ怪しみ余よ告て材とせり
余めららく此樹うら朽て空洞とせり狐狸のこひ
極といつし死しその枯骨を存せり於屋にと未
エ云此弱弱すろくりて然骨不はをれハ少く大なり

すく齒のこちもあつるなり且又手足のこちもなほ
て狐狸の骸骨なりとせりこれよりして余も材を取
るなりとぬ河等のこちもやある屋うら
陸奥白河郡真名幡村とつるを云ふ古相あり朽の
大樹あり一夕暴雨迅雷ありて此樹を焼うりしらふ
洞穴ありて蛇形の毛の焼死せり燃骨凝結し臭
悪近づく屋うら骸骨岡とせりといひ又那珂
郡額田村よ朽の大樹あり一日雷火を焼失し骸こり
多く出ると云又予う一友人西金村神永氏樂志園

号一醫と業と一最も其術は秀一御中の名士と
り神永氏者日南台山中の岩間は枯骨若干と見
出せり其状蛇ふ貌せり此れ河木の石の事と云ふ
久慈郡以花村は古城あり佐竹義胤の第四男小川
五郎宗義此地は合邑一累世城を治りし隣里
大澤村は根渡神社あり社由は大旦郡小川彈正左
衛門の名を記せり是も同族なる處一今此城跡を
館と呼べり此處は人家八九軒あり家々甲或は鞍刀
鎧の武具を所持せり相傳ふ小川氏の家人なる

が今余り知るやまの石の神永氏或は清水氏やま
ありその外もまて多くありて一を詳かろば再
考し後篇に録せしむ

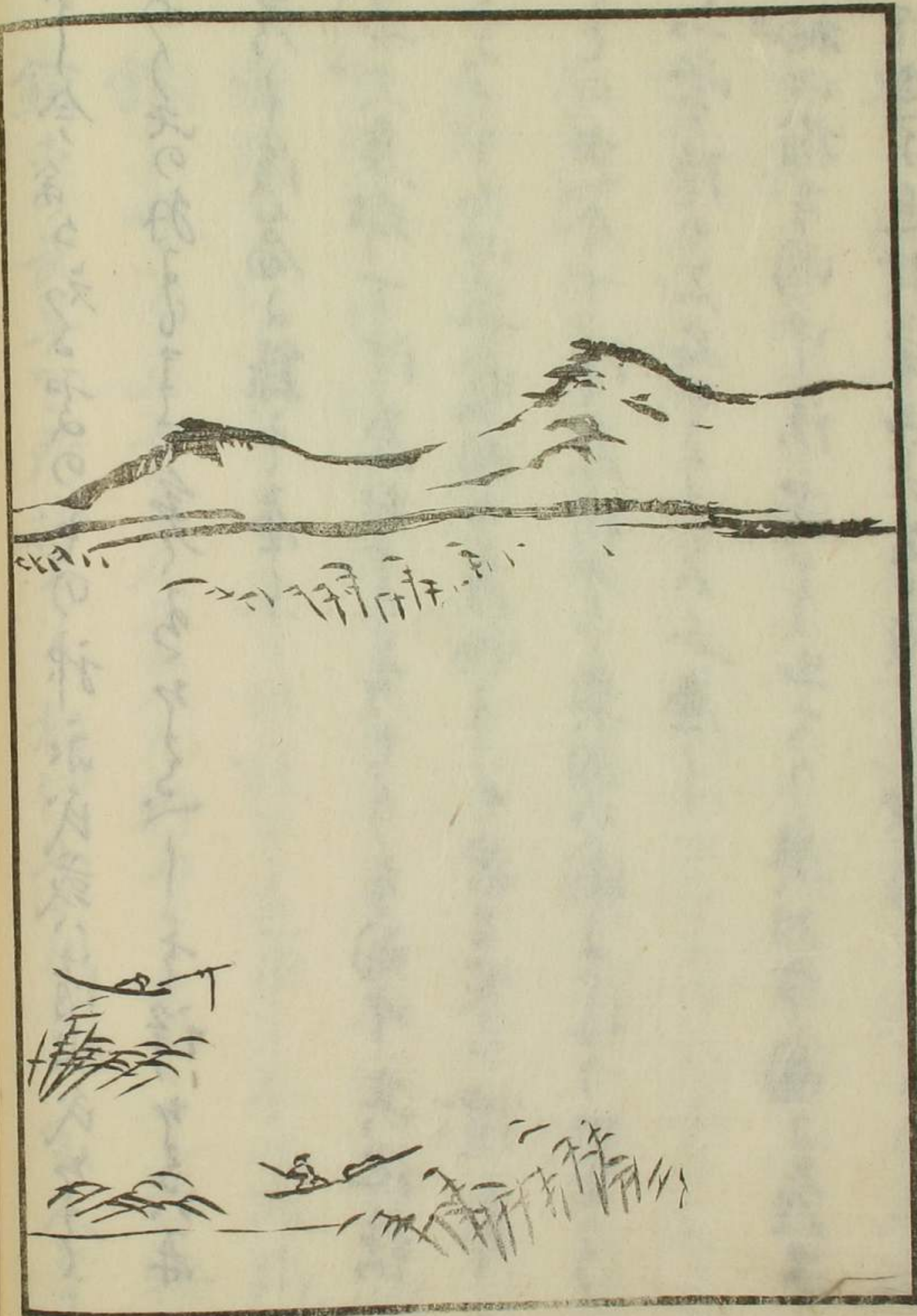
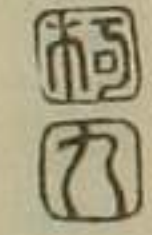
姜久慈郡下津原村より産せり本國中其他法
やまより出此姜暖國の産物として最も寒と懼れ
る由今下津原村より奥羽の國に送り置る
ふ常陸の名品なりと云ふ處

柚は樹本國中法やまより出せり奥羽の國に産せ
る由不近時常陸の名産と云ふ也

湖面粘天少見界泊舟
 相掩水東於路邊
 外望塵土多頃玻璃月
 一痕

洗心題

霜屋



柑多珂郡秋山より以南油那子ホの訪村比屋皆あり
行方郡大洲新田村田氏より

上ノ教より鉦子より出るとの最多ノ鉦子浦より北箕
幡江霞浦洞沼浦等の湖水ありいつ池より東海不朝宗
一今江戸ノ奥州北國ハヤクナリ常野ノ奥郡より訪産
物と運漕ヤル水路ハ一ノ尤モ勝地ナリ昔時彼近海トハ
此ホの地ともいひしや

久慈郡久慈川ハヤクナリ那珂川其ハ訪産又溪川ハ
ハドクハハ魚あり此魚味も頗る美なり土人云是の魚

春半より秋晩まで朝夕鳴り其聲ハヤクナリ愛
つ屋ノ能流のハドクハハ魚あり其ハ訪産又溪川ハ
ト云白あり又ハ谷川ハハドクハハ魚あり其ハ訪産又
ヤクナリ水の花ありハヤクナリ其ハ訪産又溪川ハ
セシクハハ魚あり其ハ訪産又溪川ハ
ヤクナリ其ハ訪産又溪川ハ
山矢濃の邊谷川ハハドクハハ魚あり其ハ訪産又
今僻邑の土俗ハハドクハハ魚あり其ハ訪産又
語古くハハドクハハ魚あり其ハ訪産又

唯^{アシキヤツコ}有^ニ殘^ニ賊^者一曰鼻^毒蠶

菌^{キノコ}種^ノ類^ハ極^ク多^ク土^ノ俗^ノ菌^ヲ食^シて^モ毒^ム不^レ苦^シ也

之^ノ有^リ菌^ノ性^卑濕^ノ氣^ヲ食^シて^モ毒^ム不^レ苦^シ也

胡^コ桃^ミ草^ノ根^ヲ食^シて^モ毒^ム不^レ苦^シ也

味^トも^もろ^ク一^ノ大^ノ草^ノ人^ノ食^シて^モ毒^ム不^レ苦^シ也

合^シて^モ毒^ム不^レ苦^シ也

檜^{ヒノキ}木^ノ稱^ス村^ノ人^ノ知^ル本^ノ香^ニ本^ノ類^セり^ト土

俗^ノ墓^ノ香^ニ本^ノ類^セり^ト土

あり^必し^も食^シて^モ毒^ム不^レ苦^シ也

く^死せ^るも^トの^三四^人あり^尤も^心得^居る^事なり^是葉

と^水に^浸し^て眼^ヲと^あら^いく^眼疾^ヲよ^める^一又^鼻毒^也と^も

治^セり^ノ鼻^ノ毒^ヲ治^スる^事早^ク此^葉を^揉み^て鼻^ノ毒^ヲ治^ス

効^{あり}妻^あれ^ハ効^{あり}事^{自然}ノ^理なり

余^ノ郷^里に^隣り^テ上^澤村^{あり}八^詠詠^ノの^祠あり^雨降^山

と^云是^境六^景勝^{あり}土^人云^昔時^能流^レる^也紙^此地

と^云是^境六^景勝^{あり}土^人云^昔時^能流^レる^也紙^此地

と^云是^境六^景勝^{あり}土^人云^昔時^能流^レる^也紙^此地

と^云是^境六^景勝^{あり}土^人云^昔時^能流^レる^也紙^此地

此^ノ里^に余^ノ曾^祖父^ノ生^れる^一邑^ノに^幼少^{なり}此^ノ里^に馴^レ

より往年此六景を詠へ社前よりけぬ余の奴馬才
乙文雅之乏く最も浅拙なるを要ん今其を録し之
削正とす

八海峯白雪

曉来省一色竹花與松村孤峻寒空徑宛如白帝導
南邊寺晚鐘

江村遠杵止野院疎鐘起暮鴉亂似蠅翻在炊烟裡

稻荷社紅葉

誰。瀉。丹。沙。汁。深。成。楓。葉。枝。葉。く。看。く。妙。枝。く。更。色。絲

稚子墳青松

不知童子名留得在墳空有箇長松樹唯成窺く影

偃婆潭落馬

酸嘶遠山下雨歇霧消初平晴水延紙影落一行書

鴛鴦溪打魚

水暖魚噴玉風和花舞溪酣晴好時希莫使漁郎迷

蘆野倉村あり村名倉の字あり昔時屯倉の設あり

地なる屋きり前日論次せり此村小本澤氏あり倉家

より又畷五家金澤氏あり倉術と先より性篤厚余

幼年竹馬の友なり。俳歌を好む。松江と号せり。
 上は藤田源七なるものあり。父母は不知りて母不
 ちたる。継母は侍く其の至孝を性に出。又法本を培
 栽し。松檜をとり。相漆及法菓樹を植。田舎に松
 檜数万株を植て。公家を奉る。上より志しく褒
 賞を賜ふ。殊に神佛を敬禮し。遂に喜ぶ。以て公は
 終に其父藤田源七の昌行たるものなり。神佛を
 敬し。殊に公家の法制を堅く守りて。敦朴の人
 なり。余り曾祖父五郎左衛門久敬に位見たり。時人

呼て天狗五郎左衛門。譽高源左衛門と云。五郎左衛門の生平
 天狗の説を排せり。源左衛門の好む佛神を尊崇し。堂
 塔を御造せり。と樂しむる也。なり。
 予り郷里ハ常陸の北郡なり。尤も僻遠の地なり。余り
 幼少の以ハ郷黨中神事祭禮を以隣里舎集
 射或ハ鳥籠を以てして。余りめり。いつり。弊風あり
 ころり。金錢をけし。のり。勝負せり。なり。あり
 ころり。のり。上より法令下りて。今ハ極小なり。なり。なり
 ころり。のり。後祭事ハ小唄淨瑠璃なり。のり。のり。流行り

近きは千ヨボクレナント云遊人のまふとせめても中をり世の
風中そよばしひらきなり今ハ況言の戯れも世の千ヨ
ボクレとせしむるは世のまふかくしやあさしりく
かりりしハ嘯息を魚きとせしむる也

本邦天狗と称せしもの何なる事を得よせは天狗
説天狗名義考藝園日抄怪異辨断孔雀樓筆記
北窓頭談護法次貞治論山中一少話近聞偶筆廣西通志
天狗辨山海經木の誌書不載とせのと宋校もる其説
紛然と純も定説なり天下野人本村子虚先生余小

語し云往年深夜金沙山を下ふ溪隈何人の居れ
る様しうくくありまら鳴響し林木を揺る花さかり動
翾の音空中に磔くて其響頻る人語まゝ百舌不
を歎せり又利負村鏡徳寺と云密寺ハ幽絶の境
時く松林乃ちありて此鳴響りて空のあり是を即
本綱附翼と出る治名なるものなりし世より天狗
なりと其白大略式よ似たりと云今長谷川流る
鏡家より笠原山の朝暮とて戒しむ乃ち天狗
天狗なる屋しと云本村翁 上より命せし地蝦夷

地もよれり讀書嗜武勇健喜とて終一壽正
余も曾祖父五布左の諱久敬字士交号休也又號漱
石山人任俠して有勇好義平生好て天狗の説と
挑り老健享年八十有一して終也
大子村小之慈と云地あり硯石を出しゆく水とて
まひ久しく酒池とてなり

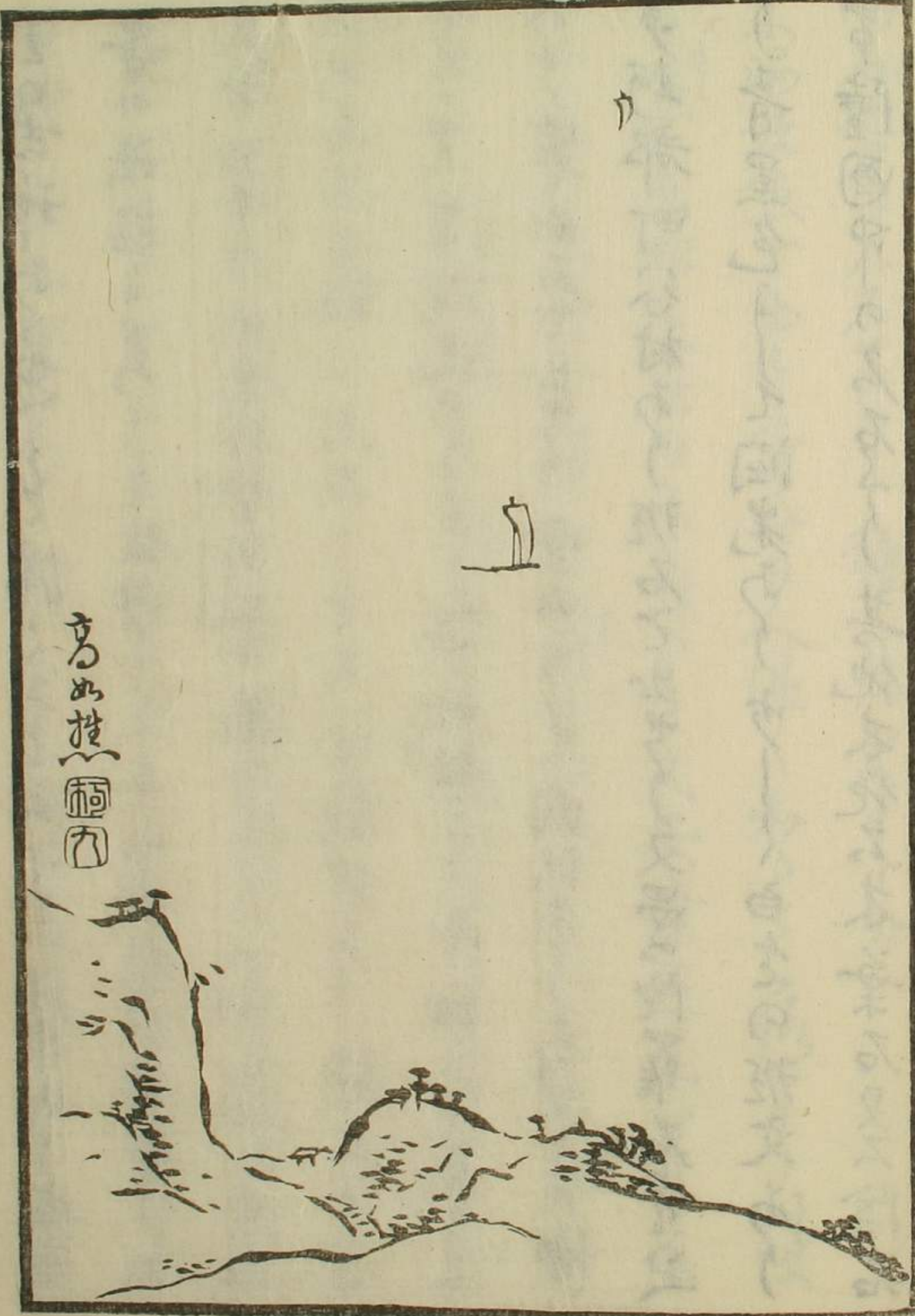
天智天皇の御宇越後より燃土とて歌せり今隣里
浅川とて村あり此燃土と出せり


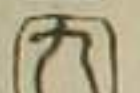
久慈川深夜網と水底に招いて魚と捕ると土人の常
なり志あるふ水魂とて水のあり暗夜水中俄に光りて
白晝のこころなる事あり今常とてなりあり
おまのケ

橘成季若園集に建仁土御門三年常陸國多珂
郡に僧あり老猿と畜り僧時法華と寫せり
分貝とて紙墨の料を顧て猿と戯とて云女人
つりせを吾り資なきとて患て猿つりて
うすはき翌日老猿人家の厩に入て白馬と偷身
短布衫と着頭編笠と載き鎌と腰に帯りて

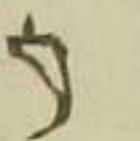

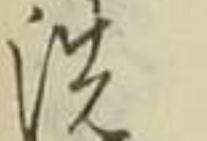
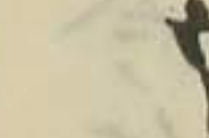

馬は跨り間道よりして馳せ行り主人追て多々地
とておぼれ行人は驚く同ておく是の先白馬と
見しや吾行人云今これよりして先小牧の編笠
と載き鑣を腰より白馬は跨るをえりいと主人其
ては怪ひ蹤と追て僧家より馬をとく僧は驚き軟
く殿に入りて見る小果して老猿一馬と率きつる僧因
こすのすして詳き告げて馬は謝せり馬は感歎
しつふ、會釈とらま思と報ゆる事と知る吾は
んど僧のなる一馬と番んとて遂に僧は馬と授て去れ
り云

風土記云久慈郡岸壁磐石の間小狨猴集會せり此地
と名つけし古く之邑と云ぐえり今河社の地や不
る處より余々隣里川山村の境久慈河の流より
断崖壁立一人の攀浮屋々々於地あり其のま腹
より石窟あり猿猴数百集會せりうち白猿あり
毛色潔白より潤光あり面は紅よりあつらも臍脂
とて糖よりとて御中の人民集りて生あるを捕え
上の奉池より今碓川寺境内に畜る又二奇あり
同郡高倉村より金沙山より猿猴多しお傳ふ山



高如樓



三
 六



 蓬翁泛舟高如樓
 倚樓碧宇漸東風
 細人古語始知空
 淡中規有松疎一
 烟方盡也忘却吟
 自然結




四十五

五日吉神ありぬと湯くこと云ふ温泉あり疝痛
等の法症よむるに云せり山南法沢村あり白
石を出せり白色明管馬腦まのうの類あり云今に戸た水
戸火赤石と称し名品と云ふ又金穀村あり鏡石と出
せり黒を潤光ありと人ぞ照映せり奇珍なり真弓山
あり寒く水石と出せり雪白と云潤沢あり又愛しは渾
多珂郡町谷村あり班石と出せり又曼陀羅石と云
り青黒色と云潤光あり少く白をの班文あり
常陸國中の久石あり其他木他石木葉石貝石陰石

陽石迦羅石さいら石いし種々諸書あり出

東海諸魚と出せる事世の人遍く知ると云後をり
木旦魚きたんぎょハ本邦と云比の久産あり又安康魚あんかぎょ魚いしと云

石那坂久慈郡金澤山の林はやし産あり以東多珂郡

小属こぞく一いっ壯觀さうくわんあり

東海と眼下小眺望たうぼう一いっ神しん王わう一いっ氣き

友部古城多珂郡小在山直氏始て築あり山直氏の祖ハ
元戸氏あり元戸家政四世の孫嘉宗二子あり其次子と
家時と云五市存つと狝せん中ちゆう是山直氏の始祖あり世

此地不食邑一六廿一して子なく佐竹義昭の子義昌
と嗣義昌死して城廢せり

久慈郡瑞龍村旗楊寺小橋の大樹一振而株一
て其六さ牛どの敷一つ屋一盤ばん旋せん數十間枝葉しん繁
くつり是花はな葉はのうらふ小針ありて旗旗の形ふ似たり
相傳ふ源義家此地不堂と結ひりて時旗竿と云ふ
池より苜蓿と生一遂ふ花とて并きてうく大樹ふな
りしころ又此地ふ一空洞あり蛇有りて盤ばん蟄ぢせり
行方郡玉造村高洲とてふやふ古松樹あり偃蓋えんがい数

十間養菜奇峭愛一の屋一上りも命令あ
りて毎く培養せり新くせり陸奥國一の岡源
義経の腰懸こし松ふ似たりと云此松懸松もをさ此松は
しつ中よりまこと惜一の屋一此村往時孝子孫作
りて此のあり委一一ハ後編ふ出せり

天智天皇十年三月甲寅常陸國より中臣部若子
と貢せり長壹尺六寸其生年丙辰して此年ふあ
りて十六歳なりと見えり矮人の本國ふ産せり古
今少なりしにせり先年菜池風助齋為雨助を

るものありいつれも長々三尺許スより五十餘歳スて死せり其子雪助ス三尺餘スて父の風ありと云
昔時那珂郡石上の郷名見たり今の石神なるはし
按ふ石上古昔イソノカミト訓せり石上ハ神代より古く
云傳ふるえりある由此の地の村名もいつれもありて
稱し來れるる屋イ 古昔石上乙麻呂常陸守不任也死
其子宅嗣也すこは國守なりつれ
えりしりもやいつの比れなりや 又古城にもあるが再考を 而るふイソノカミト云を今い
のみと呼來るるハ其言葉少くあひ違ふるふ似つれ
と古言の轉し來れる是亦の例最多く上古玉作

と云と今玉造ツクと云す馬本を イノキ又多治
比と丹墀と云今丹次と云と一枚又屋の
又門部村あり天武天皇御宇三十八氏連の姓を
賜ふり是より門部直フチ九川内直チカラチ矢田部造小泊瀬
造石上部造川内馬飼造今の村名大内河内をとありは是亦
九川内川内馬飼造今の村名大内河内をとありは是亦
と云とつくなる屋又上世大泊瀬小泊瀬の称号あり
是今大生瀬小生瀬の村名あり大泊瀬小泊瀬の村
まより一と也 總して村名姓氏人名を皆上古の村

呼と景慕いがい一統を来するものなり音訓もも字跡
少しく遠回あるふ似れども上世かみよ遙遠はるかなる自然
と予尔葉の標記しるしせるものなり

又常陸と下総の界小我孫子あひま驛あり即姓氏録不
我孫伊氣我孫公等の称見くつりまゝ古名の存を記
ことのなり

下野州足利学校小近江江戸正孫氏のぬら神一宗
板中箱本の儀禮注疏一部ありとて此本もと久
慈郡増井村萬秀山昌宗寺の蔵本なり

今小昌宗寺蔵書印ありと云

東鑑いざな小石瀬いせ与一大郎なるもの治承四年源頼朝佐
竹氏で攻佐竹氏金沙城小搦て我ひ城遂小潰一忠義
死を致し秀義遁池去る頼朝衆を遣し一絹捕しろうかせ
しむ石瀧佐竹氏の滅亡を悲しみ自行て獄小就く
頼朝怪んて故と問ふ石瀧淨泣して佐竹氏罪なく
讒人の為小陥り且又切ふ頼朝滅親の不利を説く頼
朝これと申して義と一其忠誠を善く縛と解て家
人々を以て秀義遂不頼朝に傳せりア、佐竹氏の

興廢存亡只此一个の事一たび忠節はなれり是乃
石津氏ハ今の岩瀬村小倉邑也

古昔長幡部福良女と大郡子氏女との此も貞節
と以て名あり又丸子部婦人孝節と以て名あり
近世皆川氏の家婢主家の遺命を固守一三孤を鞠
育して獄をわたり二十餘年終始一の如しとぞ

西山黄門源義公其忠節を憐れむ以て禄を賜り
商家は嫁やしむと云まは長山曾子あり此事年山
お少及ひ奇人傳にも出て人漸く知れることなれども

其貞烈後世の龜鑑ともなる處は只昭代治教の然
らしむる由んことなれども 國家の盛衰は此のま
まとて不贅せり

曾子ハ水戸府城長山七平某の女を奉行職作岡
子とて綱治の妾たり主婦のわひひおつまはぬ婢
とてありとて忠ありとて内を治るの婢はるハハキ
の中ハ善助綱常ハ家婢の産不たりとて中の子
みりとの子とて其婢とてかくとてりて淺村の某
小娘也との綱常を愛育りるとて其生不のとて

されば母子の間いさうも隔るるやと細帯もまゝ孝行
 あり心ちももくより彼家婢のうめるといふも十四五
 歳まで志くはけり侍りし其幼き時病と憂ふり
 した宵子医業と嘗^カ試るあり人目とはくを祀
 小糸丸神崎寺の観音大士一素足まゝ糸指し祈
 りしに感應のまじりいなりかゝてその病愈り
 是母の申れき母継母のいさゝけなり侍るん又小
 家婢とえひて細治のめり勢其婢ともし又いさ
 かりれ不教^カ導^カく穢^カ縁^カ何^カとす女職とせしむ

せり古く甲元婦人のうまれつば娘と甚しすそ
 し娘をくは百拙捨てしと嗚呼宵もや娘侍らぬ
 と世中の妻女の教を侍り侍り又細治久し
 召使する若侍をけり宵を心せりけしあはくしひ
 かなむんをせり時細治地小切く留まふその園
 日志れひ入しとち移て母とや志りえんうもくも脚
 指しえんくく切しは唯叫とる勢はうりこせ
 死しけり傍の衣帯うらりあせりあせりも
 細治ゆりたる不始て志りくの趣始終と語るとぞ

女乃密まよるとはかたじけなくありし水もそよめゆくや
其身の恥のまよとて親を苦しめしものをもて穢^{けが}れ
しやまよふ此宵子の御ふきつらりしを細治をてつこ
くき子甘家のうちれさせきせしむるまよひはまた
めすすぬくと侍る以上の時徳とあらりりりこ
の書は只女節女烈士とてしるしとある一たり
いやまよくとておろえ侍る正徳三年の春すう病つ
まよて固く七月廿四日ホオ才せりる於四十二戸駒込大
宗寺とてつははけうゆりて妙珠院月澄日冷と謚せり

まよとて借くをてつこく女貞烈の婦人たるとすや長山
七平久慈郡浅川村の産すしと書と善せり余う高
祖父風也とてつこくの縁えとて又七平の孫子不知名助
七平のつことのわりは皆古幽軒小巻りれと婿とてつこ
と業とて立碩と称せり水鏡庵と稱しまた久慈川
窓とてつこく云家久慈川の許に住むとて其子で立徳と
云父子何れも温淳篤實とて郷曲小名あり立徳
の子とて言察とてつこく後不祖父の名を就たてまた立碩と
称せり相次て行誼あり其家考とてつこくつこくのつこ

今此本藩藤田幽谷老先生請之撰一墓碣之錄也

皆吉慶士墓表

慶士皆吉氏諱胤忠字子位稱立碩常陸久慈郡
大子邑人其先下総大姓相馬之族仕足利氏于古河從
遷于野之喜連川曾祖曰幽軒喜連川士人相馬玄蕃
之弟隱於醫後其母姓為皆吉氏徙居大子其後喜
連川君餽之食糧以及其子玄由大父而下皆不仕
士為人溫厚敦樸讀書通大義居家勤儉善誘子
弟教誨不倦拊循僮僕如有恩平生辰拜先人

墳墓以致思慕元旦中元必弔雖風雪雷雨未嘗有
廢也其孝敬如此夙受業於原南陽其於醫事多
所發明然不事奔競優游里閭故世莫之知也文化
中增子淑茂宰北地嘉其行誼上請特加旌異許
其身佩惟及官府文書稱族鄉里頗榮之而
慶士不以為華享年六十終于其家實文政二年
八月九日也葬于卧雲山先塋之側慶士娶小室氏
先沒繼娶町島氏前為所生一男一女後為一
男曰胤謙女婿一為黑崎貞孝一為飯村友杏貞孝

好学嘗與余游屢之書請余表其墓余素聞其
士之行有^三稱述書以遺之俾鏡諸石以示後人
同郡池田村鏡山^三下谷田村就屋^三の古概^三あり河
土人の口碑而已^三證^三と^三屋^三き^三記^三載^三なり^三再考^三し
後篇^三と^三録^三し^三と^三屋^三し^三

漫遊記譚前篇大尾

